

男は怒鳴り、女は怒鳴られる

新聞投書集

『お父さん、怒鳴らないで』と新聞記事検索データから

遠藤 織枝

1 はじめに

2003年5月から8月にかけて『毎日新聞』（東京本社版）の「女／男の気持ち」欄では、「怒鳴らないで」（5月12日）、「再度、怒鳴らないで」（6月2日）、「怒鳴らないと誓う」（6月11日）、「くやしい人生」（7月7日）、「怒鳴る父、大嫌い」（7月8日）などと、投書が続いた。それを受けて、7月24日、25日には、特集記事も編集された。そして、8月22日には最初の投書者が「ついに私も怒鳴った」と投書した。こうした一連の「怒鳴る」の投書をまとめた本『お父さん、怒鳴らないで』（径書房2003年10月、以下『お父さん』と略記）が刊行された。これら次々と寄せられた投書群は、些細なことで否も応もなく怒鳴られ、ひどく傷つき、脱出できない深い穴の中で呻吟している女性がいかに多いかを浮き彫りにした。

一方で遠藤は、同年4月、セクハラを巡る処置の仕方が極めて理不尽な場面に遭遇し、それはひどい、許せないと義憤を感じて大声で怒鳴りたいことがあった。しかし、そのとき、遠藤は怒鳴れなかった。怒鳴りたくても怒鳴れないというもどかしさを経験して、男女が怒鳴るのはどういうときか、なぜ、自分では怒鳴れなかったのかを考えたいと思っていた。そのために、新聞の記事を検索して「怒鳴る」の例を集めて分析していた。

こうした、2種類の資料を基に、同じ発話行為「怒鳴る」について、それぞれの資料に相当と思われる方法で整理分析し、日本社会の「怒鳴り、怒鳴られる」実状を考察する。

2 『お父さん、怒鳴らないで』の「怒鳴る」

2.1 一連の投書が続くきっかけとなった5月12日の投書の概要は以下のとおりである。

[1]定年後4年の夫と一緒に買い物に行きクリーニング屋に寄った。預り証を忘れたと気づいたとき、夫はいきなり怒鳴り始めた。「一体、何やってるんだ！お前のせいだぞ、お前が忘れたんだぞ」。

いつも夫は困ったことがあると、人前もかまわず大声をあげて私を責める。私はつくづく悲しかった。なぜ、こうして人前もかまわず、怒鳴るのだろうか。いい年をした男がみつともない。私は気持ちが夫から遠のいていくのを覚えた。〔匿名希望¹・主婦・60歳〕

これを受けて、自分も全く同じような目にあっているという内容のもの、男性の気持ちをを知りたいというもの、男性が自分も「怒鳴る夫」の1人として悔いているというもの、娘の立場から「怒鳴る父」を許せないというものなど、投書は投書と呼び、5月から8月までに32編が掲載された。『お父さん』はこれに、新聞には載らなかった67篇の文章を加えて編集されたものである。同書「はじめに」によると、投書総数では300通を越えるものが寄せられたという。

『お父さん』に収められた投書でまず、気がつくのは匿名希望が多いことである。投書で訴えられるのは、夫や父がどういうときに、どのようにしてドナル（以下、投書中の発話行為「怒鳴る」をカタカナで表記する）のか、そのとき、投書者はどう感じ、それをどう処置するか、子どもはどういう影響を受けるかなどである。

一方で、直接はドナラれないが、男がドナル理由を述べたり、ドナラれたときの対処法だけを述べるものなどがある。ここでは、前者の、当事者からの投書78編だけを取り上げて論じる。それら投書者の属性は以下のようになっている。

1 新聞では「匿名希望」となっているが、『お父さん』では「森志津子」と明記されている。以下、新聞に掲載のものはその記載に従う。なおこれ以降の「匿名希望」は「匿名」と略記する。

2.2 投書者の属性

[表1 投書者名の表示]

	匿名	明記	計
女性	49 (74.2%)	17 (25.8%)	66 (100.0%)
男性	6 (50.0%)	6 (50.0%)	12 (100.0%)
計	55	23	78

[表2 投書者の職業など]

	主婦	無職	会社員	パート	その他	計
女性	28 (42.4%)	7 (10.6%)	6 (9.1%)	10 (15.2%)	15 (22.7%)	66(100.0%)
男性		8 (66.7%)	2 (16.7%)		2 (16.7%)	12(100.0%)
計	28	15	8	10	17	78

匿名のものが多くのは、世間体が悪いから、また、被害者の投書がドナル人の目に触れて、再び被害を受けないようにとの警戒心によるものであろう。特に女性は4分の3が匿名である。男性の匿名が半数であることと比べても、女性のほうが名前を明記しにくい状況におかれていることがわかる。

職業などの記入では、女性は主婦が4割以上で、次がパート、無職、会社員と続く。男性は無職が圧倒的に多い。年齢構成は以下のようになっている。

[表3 年齢構成]

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
女性	5 (7.6%)	17 (25.8%)	4 (6.1%)	19 (28.8%)	14 (21.2%)	6 (9.1%)	1 (1.5%)	66(100.1%)
男性	1 (8.3%)	0	1 (8.3%)	3 (25.0%)	5 (41.7%)	2 (16.7%)	0	12(100.0%)
計	6 (7.7%)	17 (21.8%)	5 (6.4%)	22 (28.2%)	19 (24.3%)	8 (10.3%)	1 (1.3%)	78(100.0%)

50代が最も多く、60代、30代、70代と続いている。ただし、女性だけでは50代、30代、60代の順で、また、男性だけでは60代、50代、70代の順である。つまり、男性の方が高年齢の投書者が多くなっている。

2.3 怒鳴る人、怒鳴られる人

[表4 怒鳴る人、怒鳴られる人]

ドナル人 ドナラレル人	夫	父	投書者	義父	叔父	上司	投書者 の妻 ³	義兄	近所の妻	病院で会 った男性	計
投書者自身	33	4				1	1				39
投書者のこども		11	4				2				17
投書者の母		19									19
投書者の義母					1						1
投書者の叔母				1							1
投書者の妻 ²			9								9
投書者の姉								1			1
近所の旦那様									1		1
病院で会った 男性の妻										1	1
計	33	34	13	1	1	1	3	1	1	1	89 ⁴

ドナル人は夫が最も多い。投書者の夫が断然多いが、さらに投書者が男性で、夫である自分がドナッているというのが9例あるし、また、義母をドナリ、叔母をドナルのも、それぞれの関係では夫である。投書者が父がドナルという場合、ドナラレルのは母と自分たち子どもでもあるから、この父は夫として自分の妻を、父として子どもをドナッている。したがって、ほとんどは夫がドナッていることになる。

女性の場合は投書者自身がドナルという3例のその相手は子供であり、夫をドナル妻というのは、近所の妻のことを述べている1例と、投書者の妻の場合の1例である。

ドナラレルのは、妻である投書者自身であり、投書者の母、叔母、義母であるが、妻がその配偶者からドナラレていることに変わりはない。妻以外にドナラレルのは子どもと会社の部下である。

2.4 どんなときに、なぜ怒鳴るか

ドナルときや、その場所などが書かれているものをまとめる。以下投書者を〔匿名・主婦・55〕のように記す。ドナル時や場所は、

- 2 男性の投書者がドナル相手である妻。
- 3 男性の投書者の妻で、子どもや夫をドナル妻。
- 4 重複しているものがあるので、合計が投書数より多くなっている。

「クリーニング屋で」〔匿名・主婦・60〕、「お客の前でも」〔匿名・主婦・72〕、「晩酌の時」〔匿名・看護婦・37〕、「親戚の前」〔黒岩金造・無職・65〕、「病院」〔笹浪真智子・主婦・51〕、「会社で」〔田中一枝・主婦・64〕、「旅行中でも」〔匿名・主婦・35〕、「買い物するとき、外食するとき」〔匿名・会社員・43〕、「結婚直後夫の家で」〔匿名・草取り・59〕、「結婚直後豹変して」〔匿名・無職・77〕など「所構わず」〔匿名・家事手伝い・29〕他1例、「きっかけがあればどこでも」〔匿名・自営業・50〕、

と、他人の前でドナラレ、その頻度は

「いつも」〔匿名・自営業・62〕、「ちよくちよく」〔中澤礼子・主婦・64〕
だという。ドナルのは

「同じ事を何回も言わせられたとき」〔高橋盛次・無職・70〕、「要求を素直に聞いてくれない」〔高橋功・無職・62〕

からだど、男性投書者はいう。ドナラレル妻の側からの投書では、

「気に入らないことがあると」〔匿名・自営業・59〕他3例、「自分の思い通りにならないと」〔匿名・アルバイト・28〕他3例、「ほんの少し気にさわる」とあると〔岩本二葉・会社員・39〕、「おかずが熱くない」〔匿名・主婦・59〕

などは一応の理由の挙げられるもの。具体的な理由は挙げられず、

「ささいなことで」〔村田起久代・アパート経営・77〕他3例、「つまらないことで」〔匿名・アルバイト・25〕、「なにもしなくても」〔匿名・主婦・63〕、「何かにつけて」〔匿名・無職・34〕、「話を聞かないうちに」〔関八重子・主婦・81〕、「なんでもかんでも悪いのは私」〔匿名・会社員・43〕

ということでもドナラレている。

理由があれば怒鳴ってもいいというものではないが、些細なことで、人前で怒鳴られるほうはたまったものではない。男性の投書では上記の高橋盛次、高橋功両者とも、妻の側に非があるとして、怒鳴るのを正当化しようとしている。

では、なんと言ってドナルのか。

まず、「役に立たない」ことで罵倒するものがある。

[2]このグズ、早くしろ、役立たず。〔笹浪・主婦・51〕

[3]お前なんか何の役にも立たない！〔匿名・アルバイト・28〕

など、夫たちは、その場ですぐ満足できないと、ドナリ散らす。

また、自分の思いのままに運ばないと、「バカ」「グズ」などを連発する。

[4]お前みたいな者、バカ、ブス。〔中村悦子・主婦・66〕

[5]バカッ、コノヤロー。〔長島由季・看護婦・25〕

[6]テメェ、バカヤロー、クソつたれ。〔匿名・主婦・72〕

[7]早く着替えを持ってこい、このグズ。〔黒岩金造・無職・65〕

など、妻に対して夫たちは口を極めて罵っている。

子供に対して父がドナルのもある。〔岩本二葉・会社員・39〕は父に「うるさい、黙れ！」とドナラれていたが、自分の方が経済力が上回るようになったら、父はドナラなくなるとも記している。

妻が小さなミスをしたり、妻が自分の流儀に合わないことをしたとき、大げさに咎めてドナルこともある。[1]で示したとおり、匿名の妻はクリーニング屋で預り証を忘れて、「一体、何やってるんだ！お前のせいだぞ、お前が忘れたんだぞ」と夫にドナラれた。〔匿名・主婦・71〕は、来客にお茶を出そうとして急須に茶葉を入れたら、突然夫に「湯ざましに湯を入れる方が先だ！」とドナラレ、客の前でのことでもあり、「本当に恥ずかしい思いをし」、夜中に2、3度咳き込んだら「うるさい」とドナラレ悲しい思いをしたと言う。

食べ物・飲み物で気に入らないのもドナルきっかけになる。

「こんなんでも酒が飲めるかあ」〔匿名・自営業・62〕、「お前の作ったものなど食べるか」〔匿名・パート看護婦・62〕と妻たちはドナラれている。

経済力の優位性を笠に着てドナルのも多い。

[8]お前が怒鳴らせるんだ、優しくしたらつけあがる、文句があつたら俺より稼いでからいえ。〔匿名・公務員・34〕

[9]俺の言うことが聞けない奴は出て行け！俺が働いて食わせ、学校に行かせたりしているんだ。主婦の仕事？みんな機械がやってる、お前は何もしていない。〔匿名・パート・58〕

[10]お前ら食わしてやってる、お前のパートの1か月分は俺の1日分だ。

〔井口真佐子・パート・67〕

などとドナラレ、妻と子どもは深い傷を負う。

[11]結婚後豹変して、すぐ『叩くぞ、殺すぞ、すったわけ』と怒鳴りだし、病んで寝ている私に（マ）、『死ぬまで働きやがれ、起きてメシを作れ』と蹴飛ばされた。〔匿名・無職・77〕

のように、結婚前は優しかったのに、結婚後豹変したという例も多い。

[12]人間のクズ、足手まといだ！死んでしまえ！産まなきゃ良かった。あんた達が居なければ離婚できたのに。〔匿名・主婦・34〕

と、子どものころ両親からドナラレたという投書もある。

このように、妻も子供も、怒鳴られる理由がないままに、ささいなきっかけで、罵詈雑言を浴びせられるのである。

2.5 ドナラレた人はどう思い、どう対応するか

例[1]のように悲しく、夫から気持ちが離れ、[2]のように恥ずかしい思いをし、挙句の果てには、

[13]早く死んでくれたら……なんて考えてはいけませんが、何度か思ったことです。〔匿名・草取り・59〕

[14]いつか死が来た時、同じ墓に入りたくない、そう思うのはいけないことでしょうか。〔中村悦子・主婦・60〕

と、夫の死を願い、死後の墓での別葬を想う。

[15]主人のいない家は空気までが軽く感じられるほどです。〔匿名・主婦・40〕

などと記す妻たちは、それでも我慢を続けるか、堪忍袋の緒を切らして離婚を考えるか、の選択を迫られる。

離婚に触れている投書は23通あるが、そのうち、離婚した人5人、離婚できない、あるいはできなかった人16人、現在申請中2人である。離婚した1人は次のように書く。

[16]結婚30周年の日、勇気を出してお願いしました。慰謝料も財産分与もいらぬから、離婚してくださいと。今は貧乏暇なしだけど、心と体

がとても幸せです。〔匿名・自営業・50〕

離婚できた人はまだ幸せだが、離婚できない人はあきらめるしかない。

[17]怒鳴る夫と40年も生きてきて……遠くの大学を選んで子供が家を出た後、私も1人になりたいと申し出ましたが、お金も自由にならなかったから所持金もなく、心身共に体調を崩し通院中の身で働いて生きて行く自信もなく、何とくやしい人生だったか。今はあきらめの境地です。〔匿名・主婦・64〕

家裁に持ち込んで、調停員に諭されて思いとどまったり、子どもに反対されたり、病気の姑を抱えていたり、やっと子どもが独立して離婚を申し出ようとして夫に倒れられたり、ドナラレル妻たちは離婚も自由に選べない。

怒鳴る男性からの、妻に離婚を迫られているという投書もある。

[18]以前は妻によく怒鳴っていましたが……でも彼女が重い病気をした後は怒鳴らなくなりました。それが最近になって、仕返しでしょうか、離婚を迫られています。『性格が嫌だった』とか、『看病の時は感謝したが、単なる同情でしょ』とか。こちらの言うことには聞く耳を持ちません。因果応報ですかね。〔匿名・無職・61〕

意地で離婚をしないという人もいる。例[9]の〔匿名・パート・58〕で、

[19]今、我が家は正に生き地獄。……幸いなことに私には働く場があり救われている。が、『働いてくれとは言わなかった。少しばかりの金でかい面をするな！お前がいないほうがスッキリする』。早く離婚した方が良いのと思われるでしょう。いいえ、私は寿命の長い女性、歳も下。薄幸な子供たちにせめて遺産を渡す迄は夫の自由にさせません。悲しい意地とわかっていても。

こうしたドナリ社会では、「人が怒鳴られていると自分も苦しく」〔匿名・主婦・29〕なる人が多く、トラウマとして長年深い傷を負わせられている例も挙げられている。

2.6 何年耐えてきたか

子どもの立場から〔匿名・会社員・38〕は、

[20] (怒鳴る父は) 70歳を越えたいまも進行形です。恥ずかしいことながら、おまわりさんと呼んだことも何度もあります。……子供のころからいつも父の怒鳴る声や、暴力を振う音を聞いていたせいかな、今でも大きな音がするとびくびくします。

と言い、[萩野智恵子・団体職員・56] は、

[21] 私の父も怒鳴る人でした。勤めから帰るや怒鳴り、日祝祭日は怒鳴り声を聞かない日はありませんでした。……死ぬまで変わらず、亡くなって七年。

と、死ぬまでドナツた父のことを言う。

60歳以上の女性の投書者の場合、結婚以来何十年も怒鳴られている。30年以上という人5人、40年以上が3人、さらに50年も、そして60年という人もいる。30年から10年区切りで1例ずつ挙げる。

[22] (3年前に夫が倒れるまで) 結婚32年、怒鳴られていつも心臓がキュッと縮んでいました。……1度怒鳴ると何時間も。友人宅へ逃げた事も。[匿名・自営業・62]

[23] 結婚して40年、毎日怒鳴られてきました。うちは小売店を営んでいますが、お客の前でも些細なことですぐ怒鳴りつけます。この惨めさは言いがありません。[匿名・主婦・72]

[24] 怒鳴る夫と50年。老後を過ごすため、福島に家を建てたが、『花を植えすぎるといっては怒鳴り、お客さんがきてお花を褒めると後で、『こんなところに花をおくから庭木が育たない』と怒鳴り。このような毎日に体調を崩して入院。……安らぎの場所は病院より他にないのでしょいか。[匿名・無職・70]

ドナラレ続けて60年という妻もいる。

[25] 話を聞かない内に怒鳴り、若いときは電話を投げつけられてお岩さんのような顔にされたこともありました。何度か別れる事を考えましたが、男1人女3人の子供を1人前にする迄我慢し……、1人になれると思ったら、主人が心臓病、……とうとう別れることもできず、今年の9月29日が60年の結婚記念日です。[関八重子・主婦・81]

2.7 現在の心境

ドナったり、ドナラれたりする人の今の心境も投書は伝えている。最初に投書して、それが共感を呼び数か月に亘って投書が続くことになった発端の投書者は8月に「ついに私も怒鳴った」と再度投書した。老後に備えての二人の生活資金を、夫は自分勝手に使い、足腰の弱らないうちに旅行したいという投書者の数年来の夢は当分お預け。それなのに、夫はたまたまセールスに来た屋根の修理屋に安易に見積もりを頼んだ。

[26] ボロ屋でも雨漏りしていない屋根にお金をかけるより、妻の私にかけよ！屋根と私とどっちが大事なの！と私はカンカンになって怒鳴りました。あー、スッキリした。女が怒鳴るには些細なことではなく、確かな理由があるのです。

[黒岩金造・無職・65] は、数々の投書に反省し、ドナラないと誓うと言う。

[27] 結婚して40年、思えば怒鳴り通しだったような気がします。……気に食わぬことがあると大きな声で怒鳴るクセが、いまだに直りません。……投書を読み、心を傷つけ悲しませていたことがよくわかりました。言葉の暴力申し訳なく、今後怒鳴らないことを心に誓いました。

[匿名・無職・68] は何度も怒鳴られた経験者として、逆襲の方法を述べる。

[28] ①玄関のタタキなどに不要の食器（1個100円位の）などを思い切りたたきつける。②電話帳など、厚さ7、8センチのものを両手に持ち、ふり上げ、テーブルや床を思い切り叩く。大きな音がするので相手はびっくりするし、私はスカッとします。

以上『お父さん』の「怒鳴る」を発話行為として分析し、それぞれのドナル状況、ドナラレル人の心情などをみてきた。怒鳴る夫や父は相手に、深い傷を負わせている。正に言葉の暴力である。何十年と忍従と屈服の日々を過ごす妻がいることからわかるように、この暴力は多少の抗議や反発では消滅しない。習慣的であり、惰性とも言えるほどのものもある。最終的には離婚しか解決方法はないと言い切る投書もある。結局は怒鳴ることが相手への暴力であり、人権侵害であり、犯罪であると、社会全体が認め、怒鳴る人に自覚を促さない限り、怒鳴る人が怒鳴ることをやめないだろう。

3 新聞記事全般の発話行為としての「怒鳴る」

3.1 辞書の「怒鳴る」

発話行為としてまず、辞書の意味をみる。辞書の語釈は動作動詞の場合ほどのような行為であることを示しているからである。最近の小型・中型辞典と類語辞典を参照する。

A『三省堂国語辞典』（三省堂2001）

①[つつしみのないようすで]大声を出・す（して呼ぶ）。「怒鳴り声」②大声でしかる。[可能]怒鳴れる

B『明鏡国語辞典』（大修館2002）

①大声を出して叫ぶ。さげぶ。「そんなに一・らなくても聞こえるよ」②怒って大声をあげる。また、大声を出してしかりつける。怒る。「『いつまで待たせるんだ』と一・られる」「『ばかもん、出て行け』と顔を真っ赤にして一」

C『広辞苑第5版』（岩波書店1998）

①あらあらしく呼ばわる。大声で叫ぶ。「いくら一・っても出てこない」②声高く叱る。「一・られて泣き出す」

D『類語大辞典』（講談社2002）

1306「いかる」 a78 おこって大声でわめく。「うちのおやじは、口答えするとすぐ一る」

1904「叫ぶ」 a08 誰かに向かって大きな声で言葉を発する。「どならなくても聞こえるよ」「あいつはいくらどなられても言うことをきかない」

どの辞書も語義を2つに分けている。Aは「つつしみのないようすで」と、大声を出すようすを慎みのなさを表わすものと補足している。Bは第2義で「怒って」大声をあげるとしている。A、C、と異なる点である。Cは①で「あらあらしく」大声で叫ぶとしている。Aの「つつしみのない」の言い換えに当る。Dでは「いかる」「さげぶ」の類義語としてそれぞれ「怒鳴る」を挙げているので、違いは「おこって」の有無に表れている。

以上をまとめると、①「大声でものを言う、叫ぶ」のと、②「怒りを込め

て大声でものを言う、叱る」との違いになる。

3.2 『毎日新聞』の「怒鳴る」

3.2.1 単独動詞と複合・派生動詞

『毎日新聞』CD-ROM版⁵での1993年から2001年（1995年を除く）の「怒鳴る」で検索した結果で、怒鳴る行為者と怒鳴られた側がわかるものだけで489例あった。ここには「怒鳴り散らす」「怒鳴りまくる」「怒鳴り合う」のような、複合動詞も含まれている。そこで、まず、「怒鳴る」と、「怒鳴る」を基にしてできた複合語・派生語に分けて、示しておく。

単独動詞	怒鳴る	331例		
複合・派生語	怒鳴り合う	16例	怒鳴りあげる	13例
	怒鳴り返す	11	怒鳴り込む	28
	怒鳴り散らす	18	怒鳴りだす	2
	怒鳴りたてる	1	怒鳴りつける	54
	怒鳴りつづける	3	怒鳴り飛ばす	2
	怒鳴り始める	5	怒鳴りまくる	3
	計		156例	

3.2.2 「怒鳴る」人と「怒鳴られる」人

発話行為「怒鳴る」の主体が男性であるか女性であるかを見る。どの語も「怒鳴られる」「怒鳴りつけられる」のような受動表現で使われることが多いが、ここでの主体は受身の主体ではなく、それらの動作の動作主を指す。以下の表では能動文の場合と受動文の場合と分けて、それぞれの主体を性別に示す。

[表5 怒鳴る人の性別]

	ドナル人				性別不明中の男女比	
	能動文で	受動文で	計	比率	275	
男性	166	67	233	70.4%	233	84.7%
女性	34	8	42	12.7%	42	15.3%
複数 ⁶	15	5	20	6.0%		
性別不明	21	15	36	10.9%		
	236	95	331	100.0%		100.0%

5 『毎日CD-ROM』('93、'94、'96、'97、'98、'99、2000、2001、日外アソシエーツ)

6 複数というのは、「スタッフが報道陣に『道をあける』と怒鳴る」(1999.3)のような場合である。

全体では男性70.4%、女性12.7%になるが、複数と性別不明を除く275例を全体として性差を比較すると、男性約85%、女性約15%である。

受動表現のものが95例あり、全体の28.7%を占めている。受身で表現されている文のドナルを動作主別にみる。女性にドナラレルのは、

[29]看護婦は忙しすぎ、親の立場は弱すぎる。……渡されたカルテをめくると「何見てるの」と怒鳴られる。(1997.9)

のような看護婦の他に、母親、妻、娘、おばさんなどにドナラレルものがあり、計8例である。

男性にドナラレル、つまり、ドナル主体が男性であるのは67である。また、ドナラレル人の性別は男性40：女性21である。ドナル人が男性67：女性8の比であるのと比べて、ドナラレルのは女性が圧倒的に多いさまがみてとれる。

なお、能動文のドナル主体は、男性166：女性34で、受動文の場合より女性の割合が多くなっている。

3.2.3 複合語・派生語の性差

[表6 複合語・派生語の性差]

	男性	女性	計
怒鳴り合う	5	0	15
怒鳴りあげる	9	2	12
怒鳴り返す	10	0	11
怒鳴り込む	20	2	28
怒鳴り散らす	12	1	18
怒鳴りだす	2	0	2
怒鳴りたてる	1	0	1
怒鳴りつける	44	4	55
怒鳴りつづける	3	0	3
怒鳴り飛ばす	2	0	2
怒鳴り始める	5	0	5
怒鳴りまくる	2	0	2
計	115	9	154

「怒鳴り合う」はドナル主体が複数で互いの動作であるという点で、主体の性別が判定しにくい。派生語「怒鳴りだす」はアスペクトの問題である。それ以外の語は「怒鳴る」程度を強めたり、動作を継続したりで、「怒鳴る」にさらに発話の勢いや強さが加わったものである。この種の語は性別が判明しているものだけでみ

ると、男性115：女性9で、「怒鳴る」の男女差よりも一段と差が広まり、男性に偏っている。

3.3 発話行為①②の性差

これら「怒鳴る」の発話行為の違いについてみる。上述の①「大声でものを言う、叫ぶ」と、②「怒りを込めて大声でものを言う、叱る」に分けてみる。

[30]野球部の三男は……スタンドから大声で「ばかーっ、しっかりしろ」と怒鳴る。(1994.5) (下線遠藤 以下同様)

のようなものは①と考えられる。

[31]前からきた中年の人が「通路を守れ」と怒鳴り、かなりきつく突き飛ばした。(1994.5)

は②と考えられよう。境界線上で、

[32]父親は対話時間が少なく、我が子を「しっかりしろ！」などと怒鳴り……。(1996.11)

などは判断しにくいが、助詞や連用修飾語句などで①か、②か判断できるものについてだけ区別した結果を性別で見ると、次のようになる。

[表7 発話行為別と性差]

	発話行為①	発話行為②
男性	51	115
女性	11	11

男性が怒りを含めて激しく「怒鳴る」場合が、大声で叫ぶものの2倍以上であるのに対して、女性は

怒りが込められているのと、込められていないのが同数となっている。

3.4 なんと行って怒鳴るのか

次に怒鳴ることばにどのようなものがあるかをみる。新聞記事には上の[29]から[32]の例のように「怒鳴る」際のことばが記されるものと、

[33]育児休暇が取れなかったため、上の二人にはすぐに怒鳴ってしまいました。(2001.4)

のように「怒鳴る」際のことばが示されないものがあるが、ことばが示されるものの中で、どのようなことばが使われているかをみる。

[34]石原知事が取材カメラマンを「早く出て行け」と怒鳴ったことなど…。(2001.6)

[35]携帯電話で運転中のドライバーの車にぶつかりそうになり「バカヤロ
二」と大声で怒鳴りながら去っていった。(1996.12)

のように、動詞の命令形のものや、感嘆詞をなげかけているものがある。こ
こで、文章の終りに表れる語と語形に注目してまとめると次のようになる。

[表8 怒鳴ることばと、怒鳴る文の文末]

文末の語形		例	男性	女性
動詞	終止形	何をぬかす	7	0
	命令形	黙れ!	49	1
助動詞		何しに来た	31	3
終助詞 (そのまなも)	な (終止)	人の荷物に触るな	15	0
	ぞ	裁判に響くぞ	4	0
	か	当たり前じゃないですか	13	2
	よ	早くおいでよ	0	2
	の	お湯が出ないけどどうなってるの	0	3
	ね	火遊びをしちゃ危ないじゃないね	0	1
終助詞形 計			50	11
名詞		おれ、肉入りのカレー	10	1
形容詞		うるさい!	5	1
形容動詞		アカデミック!	1	0
感嘆詞		ばかやろう!	8	0
言いさし		まったく、もう	3	2
怒鳴る文のないもの			45	20
計			209	39

男性の発話では命令形、助動詞、終助詞「な」「か」で終るものが多い。終
助詞「か」も「のか」と「の」を伴って詰問調になっている例が8例ある。
女性の発話では命令形で終るのは、

[36]母親が「うるさいな、あんた!どっか行っとき!」邪険な口調で怒鳴
った。(1997.8)

の1例のみである。終助詞で終わるものが多いが、「の」「よ」「ね」など、や
わらげたり相手の同意をもとめたりするもので、また、「か」も2例あるが詰
問調の「のか」として使われる例はない。男性の発話がより感情的に激しく、
強いものが多いことがわかる。

3.5 どういう人が怒鳴るのか

これら「怒鳴る」人物について、場面や職業や地位などの記事の情報で見

ると、

[37]女学校時代に痛みをこらえきれずに泣いていると、「めそめそするな」と怒鳴った父。(1998. 9)

のような家庭内・家族間でのものが最も多くて74例。ここでのドナル人の性別比をみると、男性47例63.5%、女性26例34.7%で、女性の比率が増えている。女性は家庭内でドナル場合が、外の場面に比べて格段に多いのである。

次に多いのは[38]のような政治家のもので27例ある。

[38]亀井静香が同省幹部を「……に異論があるなら辞表を出せ」と怒鳴った。(1994. 12)

これらは全て男性で女性の政治家のドナル例はない。男性の政治家たちがドナル相手は報道陣、役人、官僚、党関係者などである。3番目は、

[39]選手に聞こえる距離から「コラ〇〇！打たんかい、この役立たず！」と怒鳴ったりするのはいかなものか。(1999. 8)

のようなスポーツ関係のもの23例だが、その中では女性のものがマネージャーが部員に怒鳴るという例が1例ある以外はすべて男性の例である。

4番目は裁判所や、警察署でのものが21例あり、

[40]松本被告の声がひととき大きくなった。たまらず裁判長が「静かにしなさい」と怒鳴った。(1997. 3)

など、裁判所でもドナっているが、ここでもドナっているのはすべて男性である。5番目は

[41]教諭は「何べん同じことを言わせるのか」と怒鳴って児童の頭と顔を殴打。(1994. 12)

のような教育関係のもので20例ある。教育の現場でも生徒、児童はよくドナラれている。ここでは女性教師がドナっている例も1例あった。

4 まとめ

以上、「怒鳴る」を発話行為としてみてきた。

まず最初に見た辞書の意味では、辞書の多くが②で「しかる」としていた。上記の例で見て、[31][34][36][38][39][41]など②の語義のものと思われる

が、「しかる」行為としての発話ではない。感情的に激しく怒りをこめてドナルのは「しかる」という発話行為と異なる。その意味でDの辞書の語釈のみが現状を反映しているものと言える。

2、3の考察の結果、発話行為としての発話者では、投書でも一般記事でも、男性がドナルのが圧倒的に多く、その向けられている相手は男女ともにある。ドナル女性が少ないことからみると、ドナラレル女性の被害状況は深刻といえる。女性もドナラないわけではないが、それは家庭内で家族に向けてのものであり—それも男性に比べてはるかに少ない—、私的世界でドナッているのである。公的場面では女性はドナりにくいのである。

Aの辞書が「つつしみがなく」と補足したように、怒鳴ることは決して推奨される発話行為ではない。しかし、

[42]犬を放し飼いで散歩させていたところ、この男性が「犬をつないでくれ」などと大声で怒鳴った。(1997.6)

[43]船尾部分から沈み始め、「上に上がれ、しがみつけ」と怒鳴り声が交錯した。(2001.2)

のような身の危険を知らせたり、人を救ったりするときは必要な発話行為であろう。政治家や司法関係者、教育関係者が怒鳴るのは、強い立場のものが弱い立場のものに対して、威圧的で、発言を封じるためであるものが多く、それらは避けるべきであろう。女性が怒鳴れないのは、強圧的に出て相手を抑え込む後者のような場合である。立場が弱いことと、従来「つつしみ」を女性により厳しく求められた結果であろう。理不尽な目にあったとき、従来どおり慎み深く対処しては相手を更に増長させることになる。それを封じるためには、女性も怒鳴ることが必要であろう。

参考文献

- ジェニー・トーマス 浅羽亮一監修(1998)『語用論入門』(研究社)
ダニエル・ヴァンダーヴェーケン 久保進(監訳)(1997)『意味と発話行為』(ひつじ書房)
遠藤好英(1993)「怒りを表すことば」(『日本語学 1月号 vol12 p23-32』)

(えんどう おりえ)